

TAMASHIN Report 2022.12

2022.10.01 - 2022.12.31

—多摩の明るい未来を目指して—

第3四半期の取り組みと その結果についてご報告します。

いつもたましんをご愛顧いただきまして、誠にありがとうございます。
多摩の明るい未来に向けて、多摩地域がよりいっそう安心して豊かに暮らせる場所となるように、
今まで以上にお客さま一人ひとりが抱える課題に真摯に向き合い、経営理念である「お客さまの幸せづくり」を実現してまいります。
今後も変わらぬご愛顧のほどよろしくお願い申し上げます。

理事長

ハ木 敏郎



たましん本店屋上より

たましんトピックス

第20回多摩ブルー・グリーン賞

第20回目を迎えた多摩ブルー・グリーン賞は205件のご応募をいただきました。最優秀賞に(株)狭山金型製作所(技術・製品部門)、(株)古賀総研(経営部門)、その他優秀賞4件、多摩みらい賞6件、特別賞2件、及び第20回記念特別賞2件を決定し、表彰式を行いました。



TAMA GLOBAL COMMUNITY

TAMA GLOBAL COMMUNITYは、海外に進出している、または海外進出を目指す企業・事業者同士が連携する会員組織です。
10月には、第10回例会を開催し、今後の進出先として注目の高まるバングラデシュの投資環境、最新の海外展開支援施策や海外マーケットの動向について、大手商社や支援機関から情報提供していただきました。



資産運用・資産形成商品のラインナップ拡充

お客さまの多様な資産運用・資産形成ニーズにお応えするため、新たに一時払個人年金保険1商品、投資信託3商品の取扱いを開始しました。また、「しんきんファンドラップ」の取扱いを一部店舗から全店へ拡大しました。今後も商品ラインナップの充実に努めていきます。

	商品名	取扱開始日
一時払個人年金保険	プレミアカレンシー3	2022年11月1日
	しんきん日経平均オープン	
投資信託	イノベティブ・カーボンニュートラル戦略ファンド	2022年11月7日
	クリーンテック株式&グリーンボンド・ファンド(資産成長型)	
ファンドラップ	しんきんファンドラップ	2022年12月1日 全店取扱開始

トラベルサークル2022「魅力再発見 兵庫・京都紀行3日間」

新型コロナウイルス感染防止策を講じて、3年ぶりにたましんトラベルサークル2022「魅力再発見 兵庫・京都紀行3日間」を実施しました。約400名のお客さまに世界遺産の姫路城や日本三景の天橋立等の名所観光、各地自慢の海・山の幸をお楽しみいただきました。



多摩センター支店移転オープン

12月12日に多摩センター支店が移転オープンしました。多摩センター駅から徒歩1分とアクセスがよく、気軽にお立ち寄りいただけるよう便利で快適な環境を整えています。新店舗はワンフロアで、お客さまとの距離を大切にできるレイアウトです。また、暮らし・住まい・お金のことなどじっくり相談できるすまいるプラザを併設しています。



「ストップ!ATMでの携帯電話」運動の定着に向けた新たな取り組み

2021年4月から警視庁の「ストップ!ATMでの携帯電話」運動に賛同し、特殊詐欺被害の防止に取り組んでいます。この運動のさらなる定着のため、11月に警視庁にて新たな取組開始を宣言しました。携帯電話を使用しながらATMを操作中の人を見かけた方に、110番通報のご協力をお願いするものです。地域全体に特殊詐欺の被害防止に向けた取り組みを広めるため、全ATMコーナーにポスターを掲示しました。



多摩信用金庫

業績ハイライト 2022.4.1-2022.12.31

預金・貸出金について

地域の皆さまが抱える課題の解決に取り組んだ結果、預金積金残高は2022年3月末より745億円増加し3兆2,432億円となり、貸出金残高は、2022年3月末より215億円増加し1兆1,767億円となりました。内訳として、事業性のご融資は194億円増加、個人のお客さまのご融資は21億円増加しました。

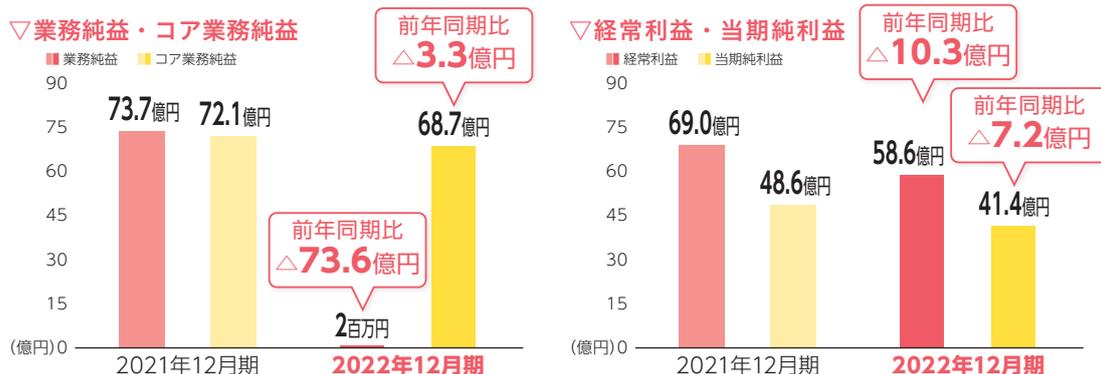
※ 個人のお客さまへのご融資には、個人事業者向け住宅資金・消費資金等が含まれます。



損益について

米国金利の上昇を背景として、将来の債券価格下落や外貨調達コスト増加への対応を目的に、適切に運用資産におけるポートフォリオの組み換えを実施しています。

その結果として、外国債券における売却損の計上により業務純益は2百万円となったものの、金融機関における本来業務の収益力を表すコア業務純益は68億円となり、安定した収益を確保しています。

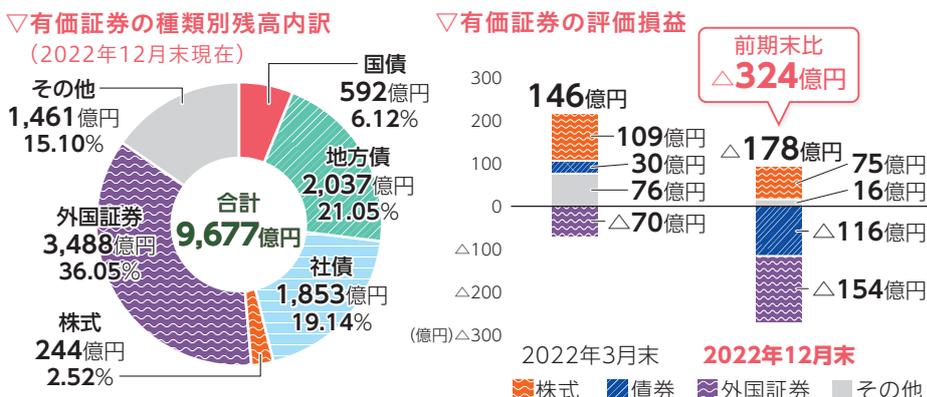


有価証券について

資金運用については、中長期的に安定した運用を心がけ、各種リスク管理を行ったうえで、国内外の債券を中心に株式や投資信託等に分散投資しています。

評価損益については、世界的なインフレの広がり、その抑制に向けた米国をはじめとする各国の利上げの影響等により悪化しました。なお、「リスク管理」と「将来の収益確保」という観点から、運用資産におけるポートフォリオの組み換えを実施するなど適切に対応しています。

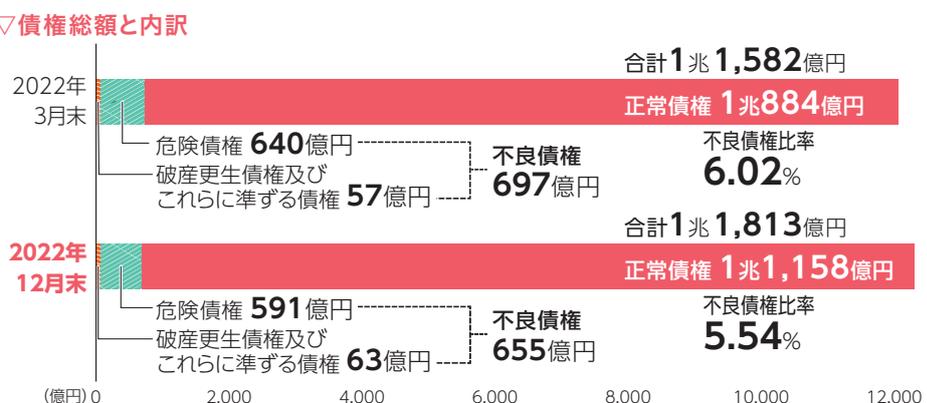
※ 有価証券の種類別残高は2022年12月末における貸借対照表計上額です。
 ※ 右図の「その他」は、投資信託等です。



不良債権について

金融再生法開示債権のうち正常債権を除く開示額は2022年3月末より42億円減少し655億円となりました。不良債権比率は0.48ポイント減少し5.54%となりました。不良債権のうちの83.42%は担保・保証や貸倒引当金によって保全され、残りの16.57%にあたる108億円についても、自己資本により、全額カバーされています。

※ 金融再生法開示債権は、貸出金のほか、外国為替、債務保証見返、仮払金、未収利息、たましんが保証する私募債を対象としています。
 ※ 要管理債権の残高はありません。



○本誌に掲載している計数は、発表日現在において入手可能な情報に基づいています。また、会計監査人の監査を受けていません。
 ○原則として単位未満切り捨て表示のため、合計・前期末比等が表示数値による算出値と一致しない場合があります。
 ○月末時点の計数については「○年○月末」、期間中の計数については「○年○月期」として項目表示しています。

